

Photoshop 用データ入稿解説書

▼ データ作成は、黒 1 色で作成します!!

画像を含み、データはすべて黒 1 色 (グレースケール) で、インクの色ごとに版分けして【1 色 = 1 ファイル】で作成して下さい。版画のような感じです。(赤インクだから赤でデータを作成すると印刷できませんので、ご注意下さい)
また、画面上の濃淡がそのまま印刷濃度に反映されます。「カラー編集」でグレースケールに自動変換したものは正しく印刷されません。例のように濃淡を調整して下さい。
例) 希望色 100% → ブラック 100%, 希望色 50% → ブラック 50%。

▼ 画像の背景は、完全な真っ白に!!

スキャンで取り込んだデータの背景部分には、元原稿の紙自体の色が残っています。そのまま印刷すると薄くムラのようにインクが乗ってしまいます。
背景部分は、必ず真っ白に補正する必要がありますので、ご注意下さい。

▼ 印刷データには、仕上り見本を必ず添付!!

両面・多色印刷の場合、完成形の仕上りイメージが分かるカラーをデータ、ご用意下さい。
仕上り見本の無い場合、イメージと異なる仕上がりになることがあります。

▼ テンプレートの見方

テンプレートは仕上がりサイズのトンボとガイドラインが入っています。
ガイドラインにはそれぞれ意味がありますので確認してからデータを配置してください。



■ 塗り足し線と文字の安全圏

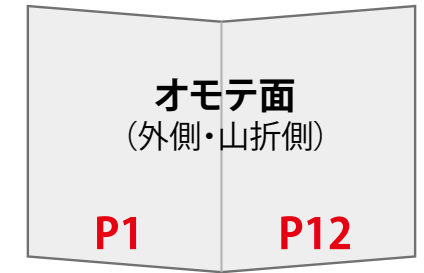
製本は断ち落としでの仕上がりになりますので
端まで印刷範囲を付ける場合は塗り足しを
付けてデータを作成してください。

塗り足しとは仕上がり線より+3~5mm余分
めにデータを作成してズレで余白が出ない
ようにすることです。

また反対にズレによって文字や必要な情報
などが切れてしまう事もあるので、内側の線
(断裁安全圏) より中に納めて配置をすると
文字切れを防ぐことができます。

■ 製本原稿のページ割について

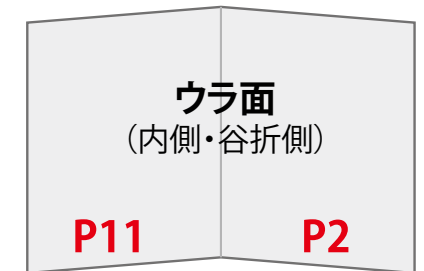
中綴じ製本は 1 原稿につき、両面で 4P 分の
データ配置となる為、ページ割をした状
態での入稿データが必要です。
ページ割とは、複数の原稿を束ねた時に
ページが順番通りになるように割り振る事
を指します。



例として右図は中綴じ製本で本文 3 枚 (12P) の
場合で本文 1 枚目のページ割です。

ページ配置は本の開く向きや綴じ方で変わる
のであくまで一例です。

レトロ印刷はオモテ面を外側で見ます。



※入稿データを作成する前に紙を使ってページ割を確認
してからデータを作成するとイメージしやすくなります。

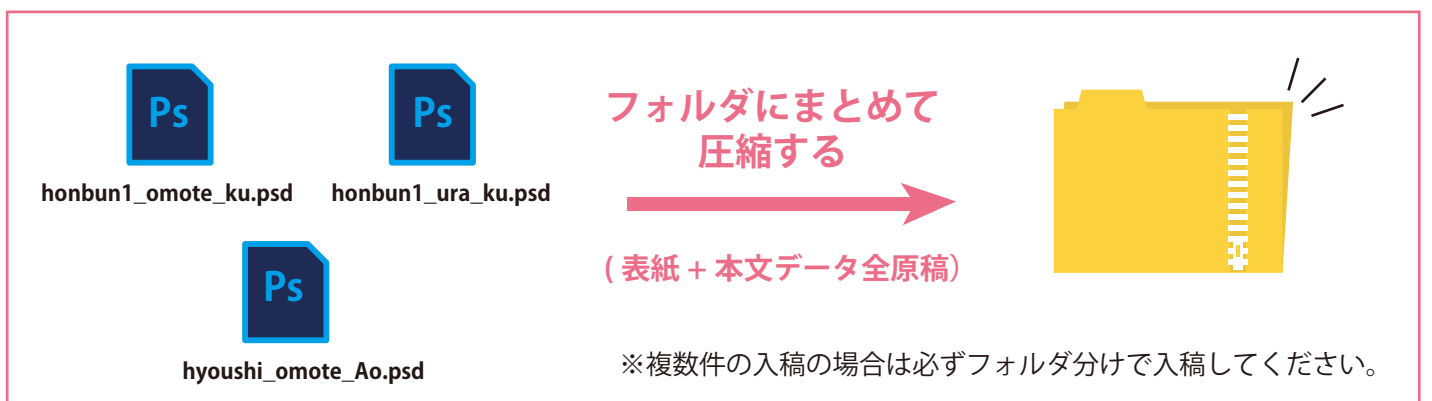
■ データの保存は 1 版 1 ファイルで!

印刷用のデータは製版データの数に分けて保存してください。

例えば表紙片面 2 色 (2/0) + 本文両面 2 色 (2/2) 本文 3 枚 12 P の原稿作成の場合であれば、
全ての入稿原稿の数は 14 ファイル必要となります。

それぞれのファイル名に原稿の種類 (表紙・本文)、色数の指示が必要となります。

以下に一例を参考にして作成してください。



▼ファイルの保存は仕様の記入を必ずデータ名に入れて保存してください。

『hyoushi_omote_Ao.psd』⇒ 表紙_オモテ面_青インク

『honbun1_ura_Ku.psd』⇒ 本文 1 枚目_裏面_黒インク

※インク名の略称は次のページのインク一覧を参考にしてください。

インク一覧

インクカラーは入稿データに使用しないでください。
※見本データや指示用のデータです。



Gold
金

金インク (ツヤブリ加工利用不可)

- ・金インクが使用できるのはオモテ面・ウラ面どちらか一面のみとなります。
- ・インクの性質上他のインクとは混色しにくく、金インクが一番上にのります。
- ・ツヤブリ加工・金インク+ツヤブリ加工の仕様では金インクが使えません。
- ・金インクは他のインクと別途印刷価格が異なります。HPでご確認ください。

Gt
限定
インク

限定インク

限定インクは一定期間ごとに色が変わる特別インクです。
ご利用の際はご注意のうえご利用ください。
インクの色味につきましては、レトロ印刷のHPにて
ご確認くださいませ。

取り扱いインクのラインナップは変動する場合がございます。
変更がある場合は再度HPから最新のテンプレートデータをDLのうえご利用ください。

レトロ印刷利用時の仕上りの注意点

版ズレはランダムに発生します！

印刷のズレは意図的ではなくランダムに起こります。
色数が多いほど印刷機を通す回数が増しますので、ズレ
が大きくなる可能性があります。

印刷工程上、汚れやすい箇所があります

印刷を行う際は、データ（原稿）を印刷用に複数面並べた
形で印刷→断裁して仕上げております。デザインや版の配置、
色数によっては下図の様に汚れが出やすい箇所があります。

※刷る順やベタ面の濃度を変えることで、汚れを回避できる場合もあります。
仕上がりに不安な点や気になっている事があればご相談ください。

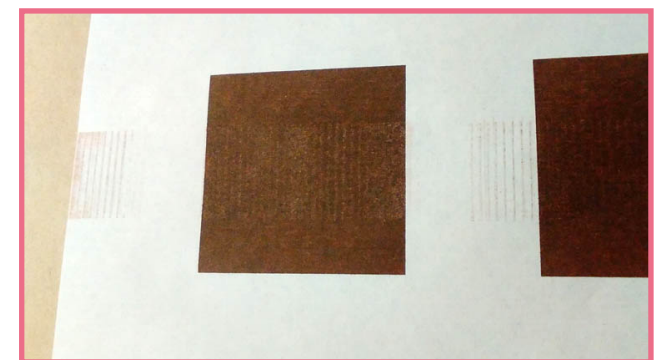
1. 給紙ローラー跡のインク汚れ (3色以上かつベタ面の場合)

レトロ印刷は1回の印刷で2色まで同時に印刷可能です。3色以上の印刷の場合は印刷工程を2回に分けて
行う為、デザインによって印刷機に通す際に給紙するローラーの跡が印刷時に出る可能性があります。
使うインクの色や濃度で出る加減は変わりますが、用紙のセンター付近は3色以上で汚れが出やすいので
予めご了承くださいませようお願いします。軽減策としては印刷の濃度が低ければ目立ちにくくなります。

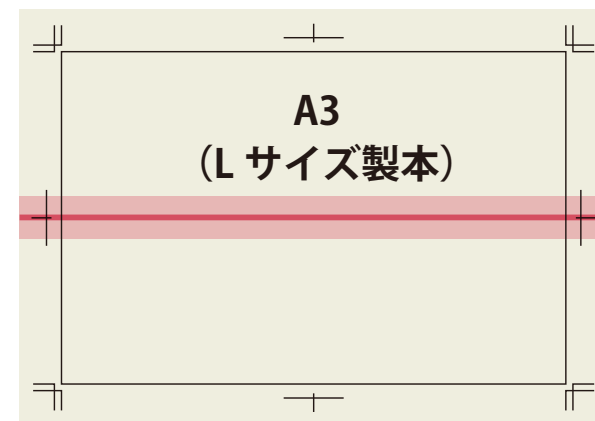
2. 用紙剥離の針スジ跡 (センター部分にベタ面がある場合)

レトロ印刷はインク付きの版から直接用紙に転写する印刷方式となり、広範囲にベタ面印刷がある場合は版
から用紙が剥がれにくくなります。印刷機の機構で剥離針というパーツに印刷直後に上から当たってしまう
ことで用紙センター部分にひっかいたスジのように汚れが出てしまう場合があります。
針跡もローラー跡同様に印刷の濃度が低ければ目立ちにくくなります。

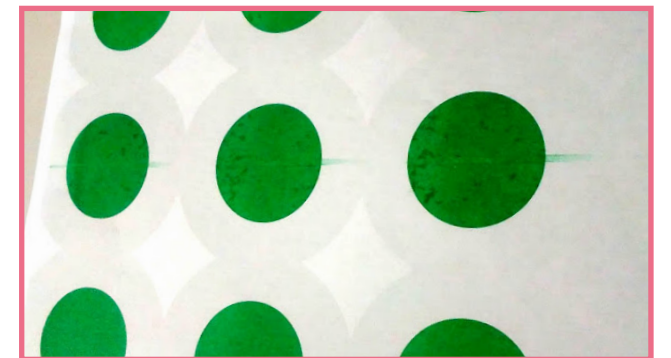
⇒▼給紙ローラー跡



※センター部分 30mm にベタ給紙ローラー跡が出やすくなります。



⇒▼剥離針スジ跡



※用紙の中心線上にベタがあると剥離針跡は出やすくなります。

